

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
老年看護学概論	1年後期	1	30	(看護師として 29 年)
<b>科目のねらい</b> 老年期の特徴を踏まえ、高齢者看護の概念及びその基盤となる超高齢社会の現況を理解する。				
<b>到達目標</b> 1. 老年期にある対象の加齢に伴う身体的、精神的、社会的側面の変化について理解できる。 2. 高齢者の健康な生活を守るまざまな保健・医療・福祉制度が理解できる。 3. 老年看護学の概念や看護の役割について理解できる。				
<b>DPとの関連</b> 1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 ◎2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し看護実践ができる。 4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
<b>授業計画</b>				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	自己の老年観を表現できる。 老年看護の変遷について理解できる。	1. 老年看護を学ぶ入り口…老いのイメージ 2. 老年期とは…高齢者の定義、ライフステージ 3. 老年看護の変遷	講義	
2	加齢に伴う心理的産側面と社会的側面の変化について述べるができる。	1. 加齢に伴う心理的側面の変化…知能、人格、創造性 2. 加齢に伴う社会的側面の変化	講義	
3	加齢に伴う心理的産側面と社会的側面の変化について述べるができる。	1. 老いを生きるということ…老年期の発達課題、スピリチュアリティ、健康と生活	講義	
4 5	高齢者疑似体験をとおして、老年の加齢変化を説明することができる。	1. 加齢による身体的変化を知る…老人疑似体験	演習	
6 7 8 9	高齢者の系統別器官における加齢変化について考え、共有し、プレゼンテーションすることができる	1. 加齢と老化 2. 老化に関する学説 3. 生理的老化と病的老化 4. 加齢に伴う身体的側面の変化…4つの力の変化 5. 各器官における加齢変化	ジグソー学習 プレゼンテーション	
10	高齢者を取り巻く社会の変化と今後の動向について述べるができる。	1. 超高齢社会の統計的輪郭 ①超高齢社会の現況	グループワーク	
11	高齢者と家族、健康状態、暮らしについて述べるができる。	②高齢者と家族 ③高齢者の健康状態 ④高齢者の死亡 ⑤高齢者の暮らし	発表	
12	高齢者と介護保険制度について述べるができる。	1. 高齢者にかかわる保健医療福祉システムの構築 2. 高齢者を支える多職種連携と看護活動	講義	
13 14	高齢者の権利擁護と倫理的課題について考えることができる。	1. 高齢者の権利擁護 ①高齢者に対するスティグマと差別 ②高齢者虐待 ③身体拘束 ④権利擁護のための制度	グループワーク 発表	
15	老年看護学の定義と主要な概念について考えることができる。 高齢者の生活を支える老年看護学の役割と責務について説明できる。	1. 老年看護の主要な概念 2. 老年看護の役割 3. 老年看護に携わるものの責務 4. 老年看護における理論	講義	
<b>受講上の注意</b> ・能動的な講義形式であり、協同学習を取り入れるため積極的な姿勢で臨むこと。			<b>関連科目</b> 解剖生理学 関係法規 社会保障論 心理学 基礎看護学概論	
<b>事前および事後学習</b> 1. 事前課題およびグループ課題は期日を守り取り組むこと				
<b>成績評価の方法</b> 平常点10% 提出物10% 筆記試験80%				
<b>教科書・参考書・その他の教材</b> 1. 系統看護学講座 老年看護学(医学書院) 2. 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 3. 国民衛生の動向				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
老年看護学方法論 I	2年前期	1	30	(看護師として 29 年)
<b>科目のねらい</b>				
<p>老年期の対象は、生理的老化や疾病の後遺症などによる何らかの障害を持ちながら生活している。対象がもてる能力を最大限に生かし、より健康に自立した生活を送るための援助の方法を学ぶ。</p>				
<b>到達目標</b>				
<p>1. 老年期にある対象へのヘルスアセスメントを行う視点と留意点を理解できる  2. 高齢者の生活機能を整える基本的な援助技術を理解する  3. 認知症のある方が生きる世界を想像し、その人らしさを大切にする看護について考えることができる  4. 高齢者の生活の質を高めるためのレクリエーションを企画・実践することができる (パフォーマンス課題)</p>				
<b>DPとの関連</b>				
<p>1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。  ◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し看護実践ができる。  4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。</p>				
<b>授業計画</b>				
回	目標	学習内容	方法	担当
1 2	高齢者のヘルスアセスメントの基本について述べるができる 老年看護技術の考え方について理解できる	1. 加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面の変化 (想) 2. ヘルスアセスメントとは ①身体的健康のアセスメント (フィジカルアセスメント・バイタルサイン・栄養評価・検査) ②生活の自立状態のアセスメント ③心理・社会的健康のアセスメント ④環境のアセスメント ⑤生活史のアセスメント 3. 高齢者総合機能評価	講義	
3	高齢者の日常生活を支える基本動作について理解できる 基本動作に伴う転倒リスク要因について述べるができる	1. 日常生活を支える基本的活動 ①基本動作と環境のアセスメント 2. 転倒のアセスメントと看護	講義	
4	高齢者の食生活・摂食嚥下障害について理解できる	1. 高齢者における食生活の意義・特徴的な変調 2. 高齢者の食生活、摂食嚥下機能、栄養状態のアセスメント 3. 高齢者の食生活の援助	講義	
5	高齢者の排泄・排泄障害について理解できる	1. 高齢者における排泄の意義・特徴的な変調 2. 高齢者の排尿障害、排便障害のアセスメント 3. 高齢者の排泄ケアの基本と排泄ケア	講義	
6	高齢者の清潔・身じたくについて理解できる	1. 高齢者における清潔の意義・高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題 2. 高齢者の清潔・身じたくのアセスメント 3. 高齢者の清潔・身じたくの援助	講義	
7	高齢者の生活リズム (運動・休息) について理解できる	1. 高齢者の生活リズム、特徴的な変調 2. 生活リズムのアセスメント 3. 生活リズムを整える看護	講義	
8	高齢者のコミュニケーションについて理解できる	1. 高齢者とのコミュニケーションと関わり方の原則 2. コミュニケーション能力のアセスメント 3. 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方	講義	
9 10 11	認知症の高齢者とのコミュニケーションやかかわり方を学びその人らしさを大切にた看護について考えることができる	1. 認知症の基礎知識 (事前課題) 2. 認知症看護の原則 3. 認知症高齢者とのコミュニケーション方法 4. パーソンセンタードケア、ユマニチュード	講義 GW	
12 13 14 15	高齢者の生活の質を高めるためのレクリエーションの企画と実践 (パフォーマンス課題)	1. 認知症について理解しよう 2. 認知症高齢者が参加したくなるようなレクリエーションを企画しようプロジェクト	演習 パフォーマンス課題	
<b>受講上の注意</b>		<b>関連科目</b>		
関連科目を復習して臨むこと		解剖生理学 病態論 基礎看護学概論 臨床看護総論 成人看護論 老年看護概論 基礎看護学実習		
<b>事前および事後学習</b>				
<p>1. 事前課題やグループ課題に積極的に取り組み、全ての学習は老年看護学実習に繋げる  2. レクリエーションは老年看護学実習 II で行えるよう修正・追加する</p>				
<b>成績評価の方法</b>				
平常点 10% 課題など提出物 10% 筆記試験 80%				
<b>教科書・参考書・その他の教材</b>				
<p>1. 系統看護学講座 老年看護学 (医学書院)  2. 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)  3. 生活機能から見た老年看護過程 (医学書院)</p>				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
老年看護学方法論Ⅱ	2年後期	1	30	(看護師として29年)
<b>科目のねらい</b> 高齢者に特有の症状や老年期の多い疾患を中心に個々の対象の状態、能力に応じた看護を展開するためのアセスメントおよび援助について理解する。また、老年期にあるすべての人が人生の終焉までその人らしく生きることを支援する看護を学ぶ。				
<b>到達目標</b> 1. 加齢に伴う心身の変化や様々な健康問題を持つ高齢者への看護を深める。 2. 高齢者に特徴的な疾患や症状について理解できる。 3. 老年期のアセスメント過程と留意点について理解できる 4. 対象が望む生活や状態像を見据えた看護過程の考え方が理解できる				
<b>DPとの関連</b> 1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 ◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し看護実践ができる。 4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。				
<b>授業計画</b>				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	高齢者の健康障害の臨床的特徴および老年期に多い疾患について理解できる	1. 老年期の多い病態（罹患しやすい疾患） 2. 老年期の疾患の現れ方・経過の特徴（成人期との相違点） 3. フレイル・廃用症候群（方法論Ⅰ）・老年症候群 4. 高齢者に多くみられる症候：個人ワークシート（老年看	講義	
2 3 4	治療を受ける高齢者の看護	1. 高齢者に起こりやすい疾患とその看護 *加齢変化、病態生理と症状のメカニズム、治療、看護のつながりが考えられるように学習する（病態関連図） 1) 高齢者に起こりやすい疾患の病態生理と症状のメカニズムについて、加齢の影響も含めた説明ができる。 2) 加齢の影響も含めて治療に伴う合併症や二次的障害リスクを明らかにする。 3) 疾病の経過（急性期から慢性期へ）に応じた支援について、高齢者の生活行動に対する影響を中心に必要な看護を明らかにする。	講義 グループ 学習	
5 6	グループ学習の発表			
7	治療を受ける高齢者の看護	1. 薬物療法を受ける高齢者の看護 2. 手術療法を受ける高齢者の看護 3. リハビリテーションを受ける高齢者の看護	講義	
8	穏やかな死を迎えるための看護について考える	1. エンドオブライフケアの概念 2. 「生きる」ことを支えるケア 3. 意思決定への支援	講義	
9 10 11	老年看護過程 大腿骨頸部骨折の患者 (手術を受ける高齢者の看護)	1. 事例展開の実際（GW） 1) 老年看護の展開における考え方（生活機能から見た老年看護過程Pvi） ①生活行動モデルによる看護過程 ②目標志向型思考への転換 2) 事例展開	講義/GW	
12 13 14 15	大腿骨頸部骨折の患者（手術後）の援助の実践	1. 事例をもとにシミュレーション 2. 高齢者の足の健康を維持するためのフットケア	シミュレーション 演習	
<b>受講上の注意</b> グループでの演習が多い科目です。個人個人が責任をもって事前学習し参画すること		<b>関連科目</b> 解剖生理学 病態論 基礎看護学概論 臨床看護総論 基礎看護技術 成人看護論 老年看護概論 基礎看護学実習		
<b>事前および事後学習</b> 1. 事前課題やグループ課題に積極的に取り組み、全ての学習は老年看護学実習に繋げる 2. 老年看護学実習Ⅲで活用できるよう看護過程の考え方は理解しておく				
<b>成績評価の方法</b> 終講試験70%、平常点10%（出欠、GW参加態度、提出期限） 提出物20%（ワークシート、看護過程）				
<b>教科書・参考書・その他の教材</b> 1. 系統看護学講座 老年看護学(医学書院) 2. 老年看護 病態・疾患論(医学書院) 3. 生活機能から見た老年看護過程(医学書院)				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
口腔健康援助論 (口腔ケア・嚥下障害)	2年前期	1	15	(歯科衛生士として33年) (看護師として30年)
<b>科目のねらい</b> 科学的根拠をもった口腔ケアの実践につながる基礎的知識・技術を理解する				
<b>到達目標</b> 1. 口腔健康科学論の学びに基づいた口腔ケアの基本的知識と技術が理解できる 2. 発達段階や状態に応じた口腔ケアについて理解できる				
<b>DPとの関連</b> 2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 ◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識、技術を習得し看護実践ができる。 4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解する				
<b>授業計画</b>				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	口腔ケアとはについて説明できる	1. 口腔ケアとは 2. 口腔ケアの意義・重要性	講義	
2	口腔ケアの基本的な流れが理解できる	1. 口腔ケアの基本的な流れ ①アセスメント ②計画・実践・評価	講義	
3	口腔ケアに必要な物品や方法を理解できる	1. 口腔ケア実際 ①口腔ケアに用いる物品 ②口腔ケアの方法	講義	
4	発達段階や状態に応じた口腔ケアについて理解できる	1. 年代別の口腔ケア ①出生前期～思春期 ②成人期～壮年期 ③老年期 ・オーラルフレイル ・誤嚥性肺炎予防 ・義歯の取り扱い・管理	講義	
5	口腔ケアの基本的知識をもとに口腔ケアの実践を体験できる	2. 患者の状態に応じた口腔ケア 1) 施設や在宅における事例より ①意識障害(開口障害)のある患者 ②麻痺のある患者 ③認知症の患者 ④知的障害の有る患者 ⑤免疫機能が低下している患者	講義 演習	
6				
7				
8		2) 医療・病院における事例より ①気管内挿管・気管切開のある患者 ②人工呼吸器装着した患者	講義	
<b>受講上の注意</b> プレテスト、ポストテストを実施し成績評価に反映する。 演習が中心である。技術を習得するために積極的な姿勢で臨むこと。			<b>関連科目</b> 生活援助技術Ⅲ 口腔健康科学論 成人看護学(脳神経) 成人看護学(耳鼻咽喉) 老年看護学 在宅看護論	
<b>事前および事後学習</b> 1. 必要な時間:30時間 2. 事前学習:生活援助技術Ⅲ、口腔健康科学論で既習した内容を予習しておくこと。 3. 事後学習:老年看護学実習Ⅰにつながる科目であることを念頭に組み込む				
<b>成績評価の方法</b> 筆記試験 演習				
<b>教科書・参考書・その他の教材</b> <b>教科書</b> 1. 成人看護学(歯・口腔) 2. 基礎看護学技術Ⅱ				



科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
老年看護学実習Ⅱ (認知症グループホーム実習)	3年前期	1	30	(看護師として29年)
<b>重点目標</b>				
認知症のある高齢者に対して意図的なアクティビティケアを企画・提供し、認知症のある高齢者の看護を学ぶ。				
<b>学習活動</b>				
1. 地域で生活（療養生活）する認知症のある高齢者の特徴について述べる。 2. 入所者の日常生活援助や日課に応じた諸活動を職員と共に行い、認知症のある高齢者一人ひとりとコミュニケーションを通して意思疎通を図るための工夫や認知レベルに応じた関わりを行う。 3. 認知症グループホームにおける認知症のある高齢者のアクティビティを促す支援（レクリエーション）を企画し、実践する。 4. 実習体験およびカンファレンスを通し、認知症グループホームで暮らす認知症のある高齢者とその家族のQOLを高める看護について学んだことを共有する。				
<b>DPとの関連</b>				
1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し看護実践ができる。 ◎4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働し、地域共生社会における看護の役割と責任を理解することができる。 5. 心身の健康を自ら保持し、看護専門職として、常に探求心をもって主体的に行動ができる。				
<b>授業計画</b>				
学習内容				方法
1. 実習場所：認知症グループホーム  2. 実習期間：4日間  3. 実習時間：原則として8：30～15：30  4. 実習展開：詳細は実習要項を参照  5. 実習内容  認知症対応型共同生活介護（グループホーム）で暮らす認知症高齢者の認知症について多角的に学びを深める。また、入所している方々との様々な生活場面におけるコミュニケーションや関りを通して地域で暮らす認知症高齢者の看護のあり方を考える。グループホーム実習では、認知症高齢者の生活を活性化するアクティビティケアとしてレクリエーションの企画・実施を指導のもと学生主体で行う。				臨地実習
<b>受講上の注意</b>			<b>関連科目</b>	
実習時間は体験することを重視し、実習記録は主に実習時間外で行う。ビジョンゴールシートに基づき、必要な学習や技術演習は実習事前に計画し実施する			看護基本技術、生活援助技術、口腔健康科学論、口腔健康援助論 老年看護学(概論、方法論Ⅰ・Ⅱ) 在宅看護論 老年看護学実習Ⅰ	
<b>事前および事後学習</b>				
1. 事前学習：老年看護、生活援助技術Ⅲ、各病態論、各成人看護学で既習した内容を予習しておく 2. 事後学習：老年看護学実習まとめにつながる科目であることを念頭に組み込む				
<b>成績評価の方法</b>				
実習指導要綱参照				
<b>教科書・参考書・その他の教材</b>				
1. 成人看護学 2. 基礎看護学技術Ⅱ 3. 老年看護学・老年看護病態・疾患論、生活機能から見た老年看護過程				

